まとめ

今回の発掘調査では、18～19 世紀の牧野氏時代、17 世紀前半頃の京極氏時代、そして 16 世紀末～17 世紀初め頃の細川氏時代もしくは京極氏時代の３面の遺構面を確認し、城内の路面や屋敷境の溝などの三ノ丸を区画する施設のほか、武家屋敷内の建物の礎石、上水施設、苑池などの多様な施設を検出しました。

調査地は田辺城の上級武士が居住していた空間であり、彼らの生活の一端を明らかにすることができました。

写真９　第１面（18 世紀～ 19 世紀）調査風景（南から）

写真 10　第２面（17 世紀前半）調査風景（西から）

近　代		
近世	江戸時代	田辺城跡
中世	安土桃山時代	
	戦国時代	
	室町時代	
	南北朝時代	
	鎌倉時代	
古代	平安時代	
	奈良時代	
	飛鳥時代	
古墳時代	後　期	
	中　期	
	前　期	
弥生時代	後　期	
	中　期	
	前　期	
縄文時代	晩　期	
	後　期	
	中　期	
	前　期	
	早　期	
	草創期	
旧石器時代		

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
http//www.kyotofu-maibun.or.jp
WEB　X（旧 Twitter）　Facebook

京埋セ現地説明会資料 25-6
令和７年 12 月 13 日

田辺城跡（たなべじょうあと）第 34 次

調査場所　舞鶴市北田辺三ノ丸５１番ほか
調査期間　令和７年６月４日～令和７年 12 月下旬（予定）
調査機関　公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

写真１　調査地より舞鶴湾を望む（南東から）

はじめに

田辺城は、天正 10(1582)年、本能寺の変の後に細川藤孝(幽斎)の隠居城として築かれました。

慶長５（1600）年の関ヶ原合戦の前哨戦として知られる「田辺城籠城戦」を経て城主が入れ替わりながら明治時代まで存続します。

田辺城は天正９（1581）年～慶長５（1600）年の細川氏時代、慶長６(1601)年～寛文８(1668)年の京極氏時代、寛文８(1668)年～明治４(1871)年の牧野氏時代に分けられます。

これまでに京極氏と牧野氏の時代の遺構面の調査を終え、現在は細川氏時代か京極氏時代前半と思われる第３面の調査を行っています。

江戸時代から近代まで

調査地は田辺城跡三ノ丸にあたり、18 ～ 19 世紀(牧野氏時代)、17 世紀前半頃(京極氏時代)、16 世紀末～ 17 世紀初め頃（細川氏時代か京極氏時代かは未確認）の３面の遺構面を確認しています。また、明治以降の加佐郡役所の基礎も見つかっています。

城内道路と武家屋敷

調査地西側では城内道路の路面や武家屋敷境の石組溝などが見つかりました。これらの位置は、時期によってわずかに移動するものの、概ね、延宝・元禄年間(1673 ～ 1704)の「延宝元禄年代田辺城図」(牧野家文書）に描かれた武家屋敷の境や城内道路と一致します。

写真２　第１面（牧野氏時代）の路面と屋敷地境（南西から）

図１　田辺城平面図
（牧野家文書「延宝元禄年代田辺城図」による）

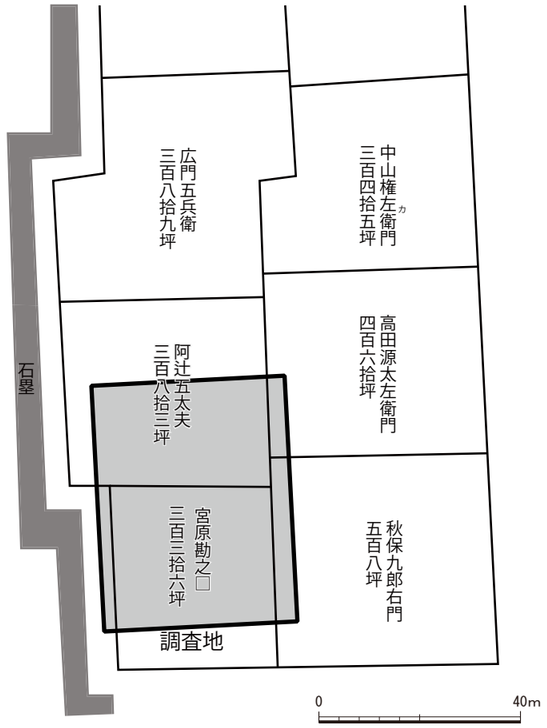

図２　田辺城跡調査区配置図（S=1/1200）

屋敷内の施設

各時代の遺構面の武家屋敷内では、竹筒と桝や桶を組み合わせた上水施設を確認したほか、京極氏時代の遺構面では、苑池の州浜とみられる礫敷き遺構なども見つかりました。

上水施設は、舞鶴市字公文名・七日市にある真名井の清水などから、湧き水を引いていたと考えられます。

写真５　第１面（牧野氏時代）の上水施設（南から）

写真３　第２面（京極氏時代）の苑池遺構１（南から）

写真６　上水施設１（第１面）・２（第２面）（西から）

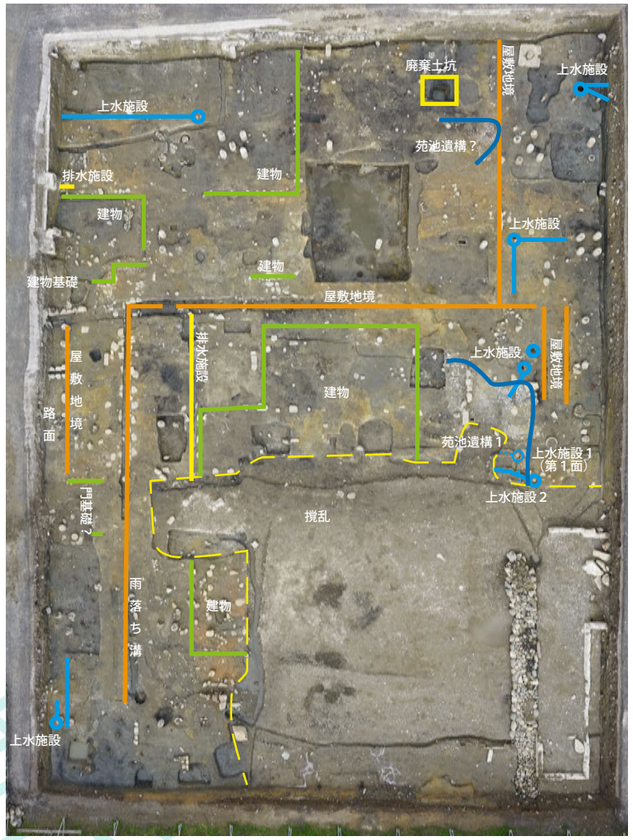

写真４　第２面（京極氏時代）全景（S =1/400）

写真７　上水施設１（第１面）・２（第２面）（南から）

写真８　第１面（牧野氏時代）の排水施設（西から）